

分担研究報告書

医薬品流通環境に関する研究

研究分担者 三浦 俊彦 （中央大学 商学部教授）

研究要旨

平成 30 年度薬価制度抜本改革が我が国の医薬品流通環境に与える影響を分析・評価するために、a. 資料に基づく調査研究、b. 個別企業へのヒアリングおよびアンケートに基づく調査研究、c. 流通改善に向けた関連業界の分析（比較研究）、を行った。

a.からは、医薬品卸売業者の経営状況について、利益水準（売上総利益率など）が他業界に比べて依然として低いことが理解された。b.からは、ヒアリング調査で小売段階（保険薬局・医療機関）からの急配、返品、上期と下期の頻繁な価格交渉などが指摘された。それらヒアリングの知見も加えて作成したアンケート調査は、現在実施中である。c.については、消費者の入手価格が同一の書籍業界（書籍流通）との比較研究を行ったが、消費者入手価格は同一であるが、流通・決済システムは医薬品流通とは大きく異なっていることが理解された。

A. 研究目的

平成 30 年度薬価制度抜本改革が我が国の医薬品流通環境に与える影響を、多様な視点から分析、評価する。

a.まず複数社にヒアリング調査を行って現状および課題を把握し、b.それら知見も加えて質問項目を設定してアンケート調査を行い、その結果を分析・整理する。

B. 研究方法

1. 資料に基づく調査研究

医薬品卸売業者の経営状況について、日本医薬品卸売業連合会の「医薬品卸売業の経営概況」（2018年版）に掲載されている卸経営の状況（売上総利益率、販売費及び一般管理費率、営業利益率、損益分岐点など）などにに基づき、経時的な変化とその要因を分析する。

3. 流通改善に向けた関連業界の分析（比較研究）

消費者の入手価格が同一の事例として書籍業界を取り上げ、医療用医薬品と書籍のそれぞれについて流通の特徴・実態とそれぞれの施策が取引に与えている影響や効果を比較し、医薬品流通改善の施策への活用について考察する。

2. 個別企業へのヒアリングおよびアンケートに基づく調査研究

医療用医薬品の流通を担う医薬品卸売業者（新薬およびジェネリック）に対し、

C. 研究結果

1. 資料に基づく調査研究  
別紙 1。

2. 個別企業へのヒアリングおよびアンケートに基づく調査研究  
別紙2。

3. 流通改善に向けた関連業界の分析（比較研究）  
別紙3。

#### D. 考察

1. 資料に基づく調査研究（別紙1）について、売上高や利益についてはほぼ前年並みであった。利益水準（売上総利益率など）については、他業界に比べて依然として低水準であるので、川上（医薬品メーカー）および川下（保険薬局・医療機関）との取引の実態をさらに調べていく必要がある。

2. 個別企業へのヒアリングおよびアンケートに基づく調査研究（別紙2）については、ヒアリング調査では、川上（医薬品メーカー）については適切な金額のアローアンスが必要なことが、川下（保険薬局・医療機関）については急配・返品削減、上期で決めた価格を下期で再交渉することの問題点などが指摘された。これらヒアリングの知見も加えたアンケート調査は、現在実施中である。

3. 流通改善に向けた関連業界の分析（比較研究）（別紙3）については、書籍流通との比較研究からは、消費者入手価格は同一で

あるが、流通・決済システムは医薬品流通とは大きく異なっていることが理解された。一方で、書籍流通では返本が可能で在庫リスクを書店が取らない点は、医薬品流通でも返品がある程度認められている点と似ていた。

#### E. 結論

医薬品卸売業が、他業界に比べて利益水準（売上総利益率など）が低い理由の一つとして、川上（医薬品メーカー）および川下（保険薬局・医療機関）との取引実態に起因する可能性もあるので、今後、川上とのアローアンスの設定の問題、川下との急配・返品・頻繁な価格交渉などを絶えずチェックしていく必要がある。これらの点は、単に医薬品卸の経営にプラスと言うだけでなく、医薬品流通全体の効率化に関わるものなので、大変重要なポイントと考えられる。

#### G. 研究発表 なし

H. 知的財産権の出願・登録状況 なし